

2 沖永良部地域を支える畑かん営農の推進

【成果の要約】

- 1 畑かん水利用研修会の開催で、参加農家は実証結果等によりかん水の大切さについて再認識した。
- 2 にんにくで省力散水器具の効果を検証し、かん水による増収が確認された。
- 3 さとうきびでは、かん水による増収効果が期待され、農家は重要性を確認した。

1 対象

畑かんマイスター7名、(連携)沖永良部島畑地かんがい営農推進協議会、和泊町園芸振興協議会にんにく部会69戸、グラジオラス生産者と泊町33戸、知名町47戸、与論町1戸、JAあまみ和泊地区さとうきび部会483戸、JAあまみ知名地区さとうきび部会541戸、JAあまみ与論地区さとうきび部会595戸、和泊町和牛振興会134戸、知名町畜産振興会47戸、与論町和牛改良組合260戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) 作物は、植付時にかん水し初期生育を安定させ、計画的に作業を実施する必要がある。さとうきび、ばれいしょ、飼料作物は、栽培面積が広いいため、省力で低コストなかん水方法での収量、品質の安定が必要である。
- (2) 畑かんの利用拡大に向けた理解促進が必要である。

3 活動内容と成果

- (1) 畑かん営農推進協議会の活動支援

ア 水利用研修会の開催

さとうきび水利用研修会で与論のチューブかん水の実証ほの取り組みを紹介し、参加農家は実証結果等により、かん水の大切さについて再認識した。また、ニンニクの水利用マニュアルの検討・改訂を行った。



与論町さとうきび水利用研修会

- (2) 各品目の水利用の推進

ア にんにくの省力散水器具の検討

昨年度設置した、スミレインによるかん水効果の実証ほの調査を行った。かん水区は無かん水区と比較し、1.4倍の収量であったが大雨の影響で試験区が浸水し、全体的に生育不良となったため、今年度も継続してかん水の有無が収量に及ぼす影響を調査している。現在、植付4カ月後の生育調査では、無かん水区と比較してかん水区が草丈の平均が5cm長く、茎径の平均は同程度である。



令和7年度かん水実証ほ

イ グラジオラスの生産性向上を目指した畑かん水利用優良事例整理

年末出し作型において、畑かん整備ほ場と未整備ほ場の品質調査を行った。整備ほ場は未整備ほ場と比較し、草丈が約 10 cm 長く、花穂の着花数が 3 蕾多く、品質向上が認められた。

ウ 実証ほによるさとうきびのかん水効果の理解促進

沖永良部島では、かん水効果の品種間差（6 品種：農林 8 号，22 号，23 号，27 号，30 号，はるのおうぎ）を検討した。生育調査の結果，いずれの品種も，かん水区が無かん水区に比べ，仮茎長が長い結果を得た。特に，農林 8 号，農林 22 号，はるのおうぎの 3 品種は，かん水を実施することにより仮茎長の伸び率が高かった。一方で，茎数はいずれの品種もかん水の有無で差がなく，品種間差も認められなかった。原料茎重はいずれの品種もかん水区の方が無かん水区と比べ約 1.1～1.5 倍重く，特に農林 23 号は約 1.5 倍重かった。



実証ほにおけるかん水状況

与論島では，農林 23 号でかん水効果の検討を行った。かん水実施区で仮茎長に生育差が出ており，かん水区は無かん水区と比べ約 1.1 倍長く，原料茎重は約 1.2 倍重かった。農家もかん水の重要性を認識していた。

エ 水利用による飼料作物の生産技術向上

新たな自給飼料作物として有望なトランスバーラは，栄養繁殖作物であるため，定植時に干ばつが続くと定着が困難となる。しかし，かん水を実施することで，問題なく定着することを確認した。



定植後のかん水状況



定着状況

4 今後の課題

- ・畑かんの利用拡大に向けた理解促進

5 担当した普及職員（○印はチーフ）

○水迫，川野，肥後，松田，下池（中野，田中）